1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070400342		
法人名	社会福祉法人平成会		
事業所名	グループホームさわらび		
所在地	長野県岡谷市西山1723-101		
自己評価作成日	平成22年9月8日	評価結果市町村受理日	平成23年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>同一敷地内に介護老人福祉施設があるため同施設内で行われるイベント(夏祭り、花火大会、地域との交流会、ボランティアの定期的訪問、職員の研修会)が共有できます。</p> <p>グループホームさわらびの他に同一法人による17事業を各地で展開しているため施設での生活が困難になった際にも他の施設サービス等を紹介することが可能です。</p> <p>自然の美しい環境の中で和やかで心豊かな生活を送ることができます。</p>
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070400342&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体組織である平成会は、地域に貢献できる福祉サービスを目指し、グループホームを始め訪問介護などの居宅系サービス、介護予防サービス、介護保険施設などを立ち上げている。「笑顔」「言葉」「食」「住まい」を大切にしているコンセプトは職員に浸透し、温かく家庭的なホームを目指して日々支援に取り組まれていた。居間の大きな窓からは、四季折々に変化する庭木が眺められ、日当たりの良い庭園の散歩は利用者の気晴らしにもなっている。敷地内の老人福祉施設とは災害時や緊急時には連携体制にあり、利用者、家族の安心につながっている。「食」を大切にしている法人の取り組みとして、衛生面、栄養面等の法人による指導が定期的に行なわれている。旬の食材を使ったメニューは色彩豊かな陶器の食器に盛り付けられ、利用者の食欲は旺盛で会話もはずみ和やかな食事風景であった。管理者は、利用者の安全を確保しながら抑圧感のない暮らしを支援するため、日々点検し、自由な暮らしを支えられるよう取り組まれていた。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成22年10月28日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(1F)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(2F)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスや日々のミーティングに於いて常に運営理念の共有を再確認している。また職員の異動時は特に理念の確認を全職員共通徹底して取り組んでいる。	母体法人の理念である「共に歩む」とコンセプトの「笑顔」「言葉」「食」「住まい」は、職員に周知され、ケアサービスを提供する上での拠り所となっていた。職員は、日々利用者へ関わる際に理念を意識できるよう常に携帯し、ケアに取り組まれていた。	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくのが地域密着型サービスである。法人の理念をもとに、グループホームとしての社会的役割を端的に示した事業所独自の理念を作り、ケアサービスの拠り所とされることを望む。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との挨拶を交わしたり、ホーム周辺の散策にお誘いし馴染みの関係作りに努めている。また、併設施設の行事参加や派遣相談員、ボランティアの定期的訪問、外出行事を通して交流している。	併設施設との行事等では地域住民の参加を呼びかけ、町内会に加入して地区の代表者に運営推進会議への参加を要請している。地域の人々との交流が重要なことは認識しているが、住宅地や学校からは距離があり、日常的な関わりが難しい様子をうかがった。	事業所自身が地域から孤立することなく、近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組むことが大切である。今後更に、小中学生のボランティアや体験実習の受け入れ、保育園の運動会への参加、また事業所の専門性を活かして地域の方々への認知症予防教室の開催など、近隣の人々との交流に取り組まれることを期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催の職員の講師派遣、講演会、認知症関連教室の開催を実施することで地域へ還元している。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	十分な意見交換を行い、その内容をサービスの向上に活かせるよう検討している。	運営推進会議は、入居者代表、入居者家族、地区代表、福祉課職員、広域連合担当者などが参加され、事業所の取り組みや課題について話し合われ、昨年度は年4回開催された。今後は行事にあわせて行なうなど、多くの方が参加でき、ケアの実際を見ていただく機会となるよう取組まれる旨をうかがった。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人事務局が窓口となり、市町村担当者との連携を取り情報を提供しながら、課題解決への取組を行っている。	介護支援相談員の派遣や、認定時の相談など、必要時には担当者で連絡を取りながら問題解決を図っている。	福祉の充実の為に、福祉課の担当者には現場の状況をしっかり受け止め、認知症ケアの実態を理解していただくことが重要である。会議だけではなく、行事や避難訓練等の参加を呼びかけるなど、様々な機会に関わりが持てることが望まれる。

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体に対する拘束はしていない。鍵をかける自由な暮らしの大切さを認識しているが職員の配置、周辺環境を考え入居者の安全確保を考慮し、ご家族の理解を得て現在は玄関の鍵をかけている。鍵をかけるケアについて職員間で継続的に検討が行われている。	勉強会や研修を行ない、職員は身体拘束をしないケアの理解と実践に取り組みされている。施錠については、抑圧感のない安全な暮らしを支援する方法や工夫について、職員間で話し合いながら検討されている旨をうかがった。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に尊厳、尊重を理解し、身体的虐待、精神的虐待は勿論、特に言葉遣いには細心の注意を払っている。不適切な言葉遣いは、即注意し合う職場の人間関係をつくっている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	常に情報を収集し、ミーティングなどを通して話し合う機会を持っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時には十分な時間をかけ丁寧な説明を行っている。また質問しやすい雰囲気づくりに努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の出席や市の介護相談専門員の訪問等、意見、不満、苦情の言える環境づくりを行っている。ホーム内にご意見箱を設置し気軽に投稿できる場も設けている。また、職員の意見交換を実施し改善している。	利用者の把握をきめ細かくできるように、居室担当制をとっている。担当者は利用者、家族の要望を引き出す場面を作り、出された意見はミーティングで伝えて日々のケアや運営に役立てるよう取り組まれている。毎月の写真入のホーム便りにより、ホームでの利用者の生活を把握できると、家族からは好評であった。	
	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンス、月1回の全体会議等を通じ意見交換を行い、改善に反映している。	個別面談は年2回行なわれ、管理者は職員の要望や意見を把握し、勤務体制等は柔軟に対応されている。事業所の運営やケアについての提案等は、ミーティングやカンファレンスで話し合われ、職員の意見が活かされるよう努められている。	

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>欠勤者等が出た場合には職員間の話し合いで勤務の調整を図り、必要な職員の確保を実施している。職員からの提案を取り入れるなど職員自身が積極的に取り組む姿勢や努力を大切にしている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修を積極的に活用し、可能な限り職員全員が参加できる機会を確保している。また、ミーティングなどを利用し継続的な活かし方を実施している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同法人内の5事業所他グループホーム連絡会や講習会に参加している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族からの情報を十分に収集するとともに、十分に時間をかけ本人を受け止め信頼関係を築く努力をしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>十分に時間をかけ受け止める努力をしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>今その人にとって一番に必要な支援は何かを見極める努力をしている。</p>		

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に同じ目線に立ち、共に過ごし学ぶという姿勢を大切にしている。調理の方法を教えてもらったり一緒に考えるなどしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	互いに情報を共有しあうことで、共に利用者を支えていくパートナーとしての関係を築けるよう努力している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人、家族等の面会や、外出への制限が無いため、以前の馴染みの関係の方々が度々訪問してくださっている。また施設からも積極的に案内を行っている。	職員は、利用者がこれまで培ってきた人間関係を把握し、盆や暮れには利用者の知人が訪問したり年賀状を出すなど、つながりを継続できる支援を行なっている様子がうかがえた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話をしている時等は、その時間を大切にしよう見守りを行っている。また利用者同士が関わり合いを持てるよう状態を観察しながら積極的に声掛けを行っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関わりを希望する利用者や家族には施設での催しや行事を案内すると共に、随時相談を受け付けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や行動を真摯に受け止め一人ひとりの希望や意向をしっかりと把握できるよう、ミーティングやカンファレンスを中心に検討している。	職員は、家族から情報を得るとともに、利用者が言葉にしづらい思いは、日々の行動や表情から汲み取るよう、一人ひとりその時々意向や思いの把握に努めながら支援されていた。	

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族との普段の会話や関係の中から把握するよう努めている。またそれらの情報をミーティング等を通じ職員全員が共有するようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング等での話し合いを通じ現状の把握と情報の共有に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が面会に訪れた機会などに現在の状況を伝えるとともに、家族の意見や意向を聞き相談しながらケアに反映させている。本人や家族、主治医などと話し合い介護計画を見直ししている。	居室担当者が本人と家族の思いや意向を確認し、ケアマネージャーと共に立案した計画は、スタッフミーティング等でアイデアを出し合いながら作り上げている。アセスメントとモニタリングを繰り返し、見直しがされていた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録のほか業務日誌や申し送りノートなどを活用し情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊、移送のサービス、入居者家族の宿泊等柔軟なサービスを行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に2回市の介護相談専門員の訪問やボランティアの方の訪問を通じ情報交換や協力を行っている。		

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所前に協力医療機関がかかりつけ医となることを説明し同意を得ている。また毎週1回、医師の往診がある。</p>	<p>事業所の協力医や歯科医による往診や看護職員による日頃の健康チェックが行なわれている。夜間、緊急時やターミナルケアの体制も構築されており、利用者とその家族の安心につながっている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師が1名従事している。また、かかりつけ医の訪問看護師と連携を取り支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>グループ法人内の医療関係者も含めて入院時の医療機関とは情報交換を行っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族等の希望を聞きながら、かかりつけ医や法人内関係者等と相談を重ね方針を決めるよう努めている。</p>	<p>医療機関の緊急時対応が可能なことにより、終末期支援への前向きな取り組みが確認できた。入居時に重度化の際の意思確認がされるとともに、指針と同意書が作成され、本人、家族の希望に添えるよう対応されていることがうかがえた。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人グループ全体としても情報を共有し対策を講じている。また研修を定期的に行うことにより対応できるよう努めている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な訓練に入居者様も参加していたき行っている。</p>	<p>消防署の協力の下、年2回は利用者と共に避難訓練が行われている。月に1回のミニ訓練や、備蓄の整備などが定期的に行なわれ、いざというときに慌てないような取り組みが確認できた。2階フロアからの誘導は周知されているものの十分ではなく、今後の課題となっている。</p>	<p>火災ばかりでなく、地震、水害、大雪等様々な災害が想定される。入居者の高齢化に伴い身体機能の低下や重度化が予想され、職員だけの誘導の限界を認識することが大切である。いざというときに近隣住民の協力を得られるよう、運営推進会議での呼びかけや協力体制の更なる構築を期待する。</p>

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行うよう努めている。	プライバシーの保護と人格の尊重は、対人援助の基本原則であり、研修や勉強会を通して職員は認識してケアをされている。職員と利用者のやり取りから、職員の利用者に対する敬意や人格を尊重する姿勢が感じられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のかかわりの中で利用者が何を希望しているか把握するように心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課はあるが、それにとらわれ過ぎることなく思い思いのペースで過ごせるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重し支援している。理容・美容は訪問理美容を活用し、ご本人の要望に沿えるよう努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、片付け等は出来るだけ利用者と共にしている。職員も一緒に食事を取ることで、味付けの好みや好きな食べ物の話などしながら楽しい時間となるよう心掛けている。	調理、盛り付け等利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルを囲み楽しく食事をされる様子がうかがえた。調理場は広く食事専用のテーブルが設置され、居間を見渡せる構造となっている。調理をしながら居間の利用者ともコミュニケーションが取れ、活気のある様子がうかがえた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス、水分量等注意している。お茶以外の時間にも水分が取れるようにしている。		

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、個別にうがいや義歯洗浄を促し口腔内の清潔に努めている。また数人の方は入れ歯洗浄剤を毎日使用している。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、早めの声掛けやトイレ誘導を心がけオムツを使用しないよう努めている。</p>	<p>トイレは車椅子対応のスペースが確保され、清潔に整備されていた。職員は、トイレでの排泄やオムツをしないですむ暮らしの大切さを理解し、チェックリスト等での個別の支援や、羞恥心や不安への配慮がなされていた。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>自然排便を促すために食べ物、飲み物等工夫し適度な運動を取り入れ予防対応している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>ある程度の時間は決まっているが職員や利用者同士話をしながら一人ひとりのペースに合わせて入浴を楽しんでいたという支援している。</p>	<p>職員は入浴時の羞恥心や負担感を理解し、利用者に無理強いすることなく、言葉掛けや対応の工夫をしながら一人ひとりに合わせた支援に取り組まれている。今後、季節にあわせてりんご湯や柚子湯など、くつろげるような演出も工夫される旨うかがった。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの体調や状況に応じ休息を促すなどの支援を行っている。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の目的、副作用、用法用量については理解している。飲み忘れ等に注意を払っている。また日常の記録を医師に伝え服薬調整している。</p>		

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の今までの生活習慣などを検討しながらふき掃除や食事の盛り付け、洗濯たみ等していただいている。また自宅にいた頃の趣味が続けられるよう環境を整えている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や状態を考慮の上、出来るだけ散歩など外出の機会を作っている。車椅子を利用し多くの方が戸外で気持ちよく過ごせるよう配慮している。	管理者と職員は、外出がその人らしく暮らし続ける支援のために重要である事を認識し、天気の良い日にはホームの周辺を散歩に出られるよう支援されている。歩行困難なケースでも、車椅子などを利用し、外出支援されている旨をうかがった。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にお金の所持はしていないが行事などの時必要であれば持っていたいただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて手紙や電話、時候の挨拶などのやり取りを支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には生け花や観葉植物を置き、廊下の壁には古典的なのれんを掛けるなど落ち着いて過ごせるよう配慮している。	玄関や居間には季節の花や観葉植物が生けられ、居間の大窓からは庭木の紅葉が観賞できるなど、落ち着ける雰囲気であった。食堂から居間全体が見渡せる構造であり、準備をしながら全体の様子把握や会話ができるよう、一体感のある取り組みがされていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にソファを置き一人になったり気の合った利用者同士で過ごせるよう工夫している。		

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し出来る限り居室には以前から使用していた家具や使い慣れた調度品を置いている。	居室はプライバシーを保てる個室であり、写真など思い出の品が持ち込まれていた。持込の物品は制限することなく、その人らしく過ごせ居心地の良い空間となるよう配慮されている様子をうかがった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱を招かないよう環境に配慮し繰り返し説明して不安を取り除くよう一人ひとりの状態に合わせて工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスや日々のミーティングに於いて常に運営理念の共有を再確認している。また職員の異動時は特に理念の確認を全職員共通徹底して取り組んでいる。	母体法人の理念である「共に歩む」とコンセプトの「笑顔」「言葉」「食」「住まい」は、職員に周知され、ケアサービスを提供する上での拠り所となっていた。職員は、日々利用者へ関わる際に理念を意識できるよう常に携帯し、ケアに取り組まれていた。	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくのが地域密着型サービスである。法人の理念をもとに、グループホームとしての社会的役割を端的に示した事業所独自の理念を作り、ケアサービスの拠り所とされることを望む。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との挨拶を交わしたり、ホーム周辺の散策にお誘いし馴染みの関係作りに努めている。また、併設施設の行事参加や派遣相談員、ボランティアの定期的訪問、外出行事を通して交流している。	併設施設との行事等では地域住民の参加を呼びかけ、町内会に加入して地区の代表者に運営推進会議への参加を要請している。地域の人々との交流が重要なことは認識しているが、住宅地や学校からは距離があり、日常的な関わりが難しい様子をうかがった。	事業所自身が地域から孤立することなく、近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組むことが大切である。今後更に、小中学生のボランティアや体験実習の受け入れ、保育園の運動会への参加、また事業所の専門性を活かして地域の方々への認知症予防教室の開催など、近隣の人々との交流に取り組まれることを期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催の職員の講師派遣、講演会、認知症関連教室の開催を実施することで地域へ還元している。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	十分な意見交換を行い、その内容をサービスの向上に活かせるよう検討している。	運営推進会議は、入居者代表、入居者家族、地区代表、福祉課職員、広域連合担当者などが参加され、事業所の取り組みや課題について話し合わせ、昨年度は年4回開催された。今後は行事にあわせて行なうなど、多くの方が参加でき、ケアの実際を見ていただく機会となるよう取組まれる旨をうかがった。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人事務局が窓口となり、市町村担当者との連携を取り情報を提供しながら、課題解決への取組を行っている。	介護支援相談員の派遣や、認定時の相談など、必要時には担当者で連絡を取りながら問題解決を図っている。	福祉の充実の為に、福祉課の担当者には現場の状況をしっかり受け止め、認知症ケアの実態を理解していただくことが重要である。会議だけではなく、行事や避難訓練等の参加を呼びかけるなど、様々な機会に関わりが持てることが望まれる。

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体に対する拘束はしていない。鍵をかける自由な暮らしの大切さを認識しているが職員の配置、周辺環境を考え入居者の安全確保を考慮し、ご家族の理解を得て現在は玄関の鍵をかけている。鍵をかけるケアについて職員間で継続的に検討が行われている。	勉強会や研修を行ない、職員は身体拘束をしないケアの理解と実践に取り組みされている。施錠については、抑圧感のない安全な暮らしを支援する方法や工夫について、職員間で話し合いながら検討されている旨をうかがった。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に尊厳、尊重を理解し、身体的虐待、精神的虐待は勿論、特に言葉遣いには細心の注意を払っている。不適切な言葉遣いは、即注意し合う職場の人間関係をつくっている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	常に情報を収集し、ミーティングなどを通して話し合う機会を持っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時には十分な時間をかけ丁寧な説明を行っている。また質問しやすい雰囲気づくりに努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の出席や市の介護相談専門員の訪問等、意見、不満、苦情の言える環境づくりを行っている。ホーム内にご意見箱を設置し気軽に投稿できる場も設けている。また、職員の意見交換を実施し改善している。	利用者の把握をきめ細かくできるように、居室担当制をとっている。担当者は利用者、家族の要望を引き出す場面を作り、出された意見はミーティングで伝えて日々のケアや運営に役立てるよう取り組まれている。毎月の写真入のホーム便りにより、ホームでの利用者の生活を把握できると、家族からは好評であった。	
	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンス、月1回の全体会議等を通じ意見交換を行い、改善に反映している。	個別面談は年2回行なわれ、管理者は職員の要望や意見を把握し、勤務体制等は柔軟に対応されている。事業所の運営やケアについての提案等は、ミーティングやカンファレンスで話し合われ、職員の意見が活かされるよう努められている。	

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	欠勤者等が出た場合には職員間の話し合いで勤務の調整を図り、必要な職員の確保を実施している。職員からの提案を取り入れるなど職員自身が積極的に取り組む姿勢や努力を大切にしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に活用し、可能な限り職員全員が参加できる機会を確保している。また、ミーティングなどを利用し継続的な活かし方を実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の5事業所他グループホーム連絡会や講習会に参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの情報を十分に収集するとともに、十分に時間をかけ本人を受け止め信頼関係を築く努力をしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に時間をかけ受け止める努力をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今その人にとって一番に必要な支援は何かを見極める努力をしている。		

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に同じ目線に立ち、共に過ごし学ぶという姿勢を大切にしている。調理の方法を教えてもらったり一緒に考えるなどしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	互いに情報を共有しあうことで、共に利用者を支えていくパートナーとしての関係を築けるよう努力している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人、家族等の面会や、外出への制限が無いため、以前の馴染みの関係の方々が度々訪問してくださっている。また施設からも積極的に案内を行っている。	職員は、利用者がこれまで培ってきた人間関係を把握し、盆や暮れには利用者の知人が訪問したり年賀状を出すなど、つながりを継続できる支援を行なっている様子がうかがえた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話をしている時等は、その時間を大切にするよう見守りを行っている。また利用者同士が関わり合いを持てるよう状態を観察しながら積極的に声掛けを行っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関わりを希望する利用者や家族には施設での催しや行事を案内すると共に、随時相談を受け付けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や行動を真摯に受け止め一人ひとりの希望や意向をしっかりと把握できるよう、ミーティングやカンファレンスを中心に検討している。	職員は、家族から情報を得るとともに、利用者が言葉にしづらい思いは、日々の行動や表情から汲み取るよう、一人ひとりその時々意向や思いの把握に努めながら支援されていた。	

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族との普段の会話や関係の中から把握するよう努めている。またそれらの情報をミーティング等を通じ職員全員が共有するようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング等での話し合いを通じ現状の把握と情報の共有に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が面会に訪れた機会などに現在の状況を伝えるとともに、家族の意見や意向を聞き相談しながらケアに反映させている。本人や家族、主治医などと話し合い介護計画を見直ししている。	居室担当者が本人と家族の思いや意向を確認し、ケアマネージャーと共に立案した計画は、スタッフミーティング等でアイデアを出し合いながら作り上げている。アセスメントとモニタリングを繰り返し、見直しがされていた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録のほか業務日誌や申し送りノートなどを活用し情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊、移送のサービス、入居者家族の宿泊等柔軟なサービスを行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に2回市の介護相談専門員の訪問やボランティアの方の訪問を通じ情報交換や協力を行っている。		

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所前に協力医療機関がかかりつけ医となることを説明し同意を得ている。また毎週1回、医師の往診がある。</p>	<p>事業所の協力医や歯科医による往診や看護職員による日頃の健康チェックが行なわれている。夜間、緊急時やターミナルケアの体制も構築されており、利用者とその家族の安心につながっている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師が1名従事している。また、かかりつけ医の訪問看護師と連携を取り支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>グループ法人内の医療関係者も含めて入院時の医療機関とは情報交換を行っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族等の希望を聞きながら、かかりつけ医や法人内関係者等と相談を重ね方針を決めるよう努めている。</p>	<p>医療機関の緊急時対応が可能なことにより、終末期支援への前向きな取り組みが確認できた。入居時に重度化の際の意思確認がされるとともに、指針と同意書が作成され、本人、家族の希望に添えるよう対応されていることがうかがえた。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人グループ全体としても情報を共有し対策を講じている。また研修を定期的に行うことにより対応できるよう努めている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な訓練に入居者様も参加していたき行っている。</p>	<p>消防署の協力の下、年2回は利用者と共に避難訓練が行われている。月に1回のミニ訓練や、備蓄の整備などが定期的に行なわれ、いざというときに慌てないような取り組みが確認できた。2階フロアからの誘導は周知されているものの十分ではなく、今後の課題となっている。</p>	<p>火災ばかりでなく、地震、水害、大雪等様々な災害が想定される。入居者の高齢化に伴い身体機能の低下や重度化が予想され、職員だけの誘導の限界を認識することが大切である。いざというときに近隣住民の協力を得られるよう、運営推進会議での呼びかけや協力体制の更なる構築を期待する。</p>

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行うよう努めている。	プライバシーの保護と人格の尊重は、対人援助の基本原則であり、研修や勉強会を通して職員は認識してケアをされている。職員と利用者のやり取りから、職員の利用者に対する敬意や人格を尊重する姿勢が感じられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のかかわりの中で利用者が何を希望しているか把握するように心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課はあるが、それにとらわれ過ぎることなく思い思いのペースで過ごせるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重し支援している。理容・美容は訪問理美容を活用し、ご本人の要望に沿えるよう努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、片付け等は出来るだけ利用者と共にしている。職員も一緒に食事を取ることで、味付けの好みや好きな食べ物の話などしながら楽しい時間となるよう心掛けている。	調理、盛り付け等利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルを囲み楽しく食事をされる様子がうかがえた。調理場は広く食事専用のテーブルが設置され、居間を見渡せる構造となっている。調理をしながら居間の利用者ともコミュニケーションが取れ、活気のある様子がうかがえた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス、水分量等注意している。お茶以外の時間にも水分が取れるようにしている。		

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、個別にうがいや義歯洗浄を促し口腔内の清潔に努めている。また数人の方は入れ歯洗浄剤を毎日使用している。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、早めの声掛けやトイレ誘導を心がけオムツを使用しないよう努めている。</p>	<p>トイレは車椅子対応のスペースが確保され、清潔に整備されていた。職員は、トイレでの排泄やオムツをしないですむ暮らしの大切さを理解し、チェックリスト等での個別の支援や、羞恥心や不安への配慮がなされていた。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>自然排便を促すために食べ物、飲み物等工夫し適度な運動を取り入れ予防対応している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>ある程度の時間は決まっているが職員や利用者同士話をしながら一人ひとりのペースに合わせて入浴を楽しんでいたという支援している。</p>	<p>職員は入浴時の羞恥心や負担感を理解し、利用者に無理強いすることなく、言葉掛けや対応の工夫をしながら一人ひとりに合わせた支援に取り組まれている。今後、季節にあわせてりんご湯や柚子湯など、くつろげるような演出も工夫される旨うかがった。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの体調や状況に応じ休息を促すなどの支援を行っている。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の目的、副作用、用法用量については理解している。飲み忘れ等に注意を払っている。また日常の記録を医師に伝え服薬調整している。</p>		

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の今までの生活習慣などを検討しながらふき掃除や食事の盛り付け、洗濯たみ等していただいている。また自宅にいた頃の趣味が続けられるよう環境を整えている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や状態を考慮の上、出来るだけ散歩など外出の機会を作っている。車椅子を利用し多くの方が戸外で気持ちよく過ごせるよう配慮している。	管理者と職員は、外出がその人らしく暮らし続ける支援のために重要である事を認識し、天気の良い日にはホームの周辺を散歩に出られるよう支援されている。歩行困難なケースでも、車椅子などを利用し、外出支援されている旨をうかがった。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にお金の所持はしていないが行事などの時必要であれば持っていたいただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて手紙や電話、時候の挨拶などのやり取りを支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には生け花や観葉植物を置き、廊下の壁には古典的なのれんを掛けるなど落ち着いて過ごせるよう配慮している。	玄関や居間には季節の花や観葉植物が生けられ、居間の大窓からは庭木の紅葉が観賞できるなど、落ち着ける雰囲気であった。食堂から居間全体が見渡せる構造であり、準備をしながら全体の様子把握や会話ができるよう、一体感のある取り組みがされていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にソファを置き一人になったり気の合った利用者同士で過ごせるよう工夫している。		

外部評価結果(GHさわらび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し出来る限り居室には以前から使用していた家具や使い慣れた調度品を置いている。	居室はプライバシーを保てる個室であり、写真など思い出の品が持ち込まれていた。持込の物品は制限することなく、その人らしく過ごせ居心地の良い空間となるよう配慮されている様子をうかがった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱を招かないよう環境に配慮し繰り返し説明して不安を取り除くよう一人ひとりの状態に合わせて工夫している。		